



人吉へボランティアバスを運行

8/1 豪雨災害で被災した人吉市にボランティアを運ぶバスの運行を市が始めました。このバスは8月の毎週土・日曜に運行。延べ130人以上が参加し、清掃作業などに汗を流しました。



流れ着いた仏像を芦北へ返却

8/4 7月4日の豪雨災害で芦北町のお堂から流失した仏像を、不知火町に住む萩坂豊さんが近所の海岸で発見。文化課を通じて所有者を調べ、阿弥陀仏像を芦北の皆さんへ返却しました。



仮設団地に豪雨被災者が入居

8/9 豪雨被害を受けた球磨村の被災者が小川仮設団地に入居しました。熊本地震の仮設住宅の避難所利用は県内初。球磨村の応急仮設住宅ができるまでの約3か月間、生活の場となります。



悲劇を繰り返さないために続ける平和活動

8/9 長崎原爆の日から75年を迎えた同日、不知火町の道の駅「不知火」で核兵器廃絶と世界平和を願う集会が開かれました。新日本婦人の会宇城支部(高田裕子支部長)の主催。同支部は毎年、市役所などで原爆写真展を開催しており、今回はその開催に合わせて道の駅「不知火」に設置されている「幸せの鐘」を鳴らし、平和を祈りました。署名活動や合唱も行い、原爆投下の午前11時2分には戦没者を悼み黙とうをささげました。



深夜、海に落ちた男性を連携して救助

7/28 宇城広域連合消防本部で三角町の福田康仁さん(35 写真右)と松橋町の村上愉一郎さん(27 写真左)ら6人が、人命救助に貢献したとして表彰されました。6人は7月5日深夜、三角港内で釣りを終え帰ろうとしていたところ、岸壁から海に落ち助けを求めている男性を発見。消防に通報し、浮輪で棧橋まで引き寄せると、到着した消防隊と協力して男性を救助しました。



皆さんの思いが明日の糧に

4月～8月 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、また、今後の備えとして、市や学校に対し、多くの支援が寄せられています。地域住民のために役立ててほしいという思いが込められた温かい支援の一部を紹介します。

寄付をいただいた皆さまへ心より感謝申し上げます。大切に活用させていただきます。

寄付一覧

日付	寄付者	品目
4/ 9	松橋中保護者	電子体温計、血液酸素濃度測定器、血圧計、ペンライト、冷却剤
4/13	松橋小保護者 小川小保護者	体温計 マスク
4/15	豊福小学校の住民	体温計、血圧計、 パルキオキシメータ
4/23	小川小保護者	マスク
4/28	熊本アスリートサポート ト松橋ウインズ	アルコール消毒液 マスク
5/ 9	小篠内科医院	マスク
5/18	JA 熊本中央会	スイカ
	JA 熊本中央会	メロン
5/19	小篠内科医院 豊福小保護者	マスク マスク
	中岡建築	木製の感染防止柵
5/22	JA 熊本果実連	ジュース
	熊本県酪農業協同組合 連合会	牛乳
5/25	海東小保護者	マスク
5/26	小篠内科医院	マスク
6/10	ネクストエナジー コーポレーション	光触媒除菌剤、超音波噴霧器、 手指用光触媒除菌剤
6/19	サン・アルファ	マスク
7/14	熊本キワニスクラブ	マスク
7/17	中内土木	マスク
7/20	アイエスティー	マスク、アルコール消毒液
7/22	雷電	非接触式デジタル体温計
8/27	くまもとマスク	マスク

三角防災拠点センター始動 災害に強い 安全なまちづくり

7/26 三角防災拠点センターの落成式があり、工事関係者や地元住民など約100人が参加しました。同施設は、豊野に続く第2号として、普段は防災学習や市民が集う場などとして利用



され、災害時には物資の集配や中長期に及ぶ避難生活の中心的な施設となります。午後からは住民向けの内覧会も開かれ、担当職員が施設機能の説明を行いました。



画家が見つけたすてきな宇城

7/24 今年の絵本原画展は加藤休ミさんの作品展。加藤さんが市内を巡り、この日公開制作を行いました。墨とクレヨンを使った作品には、市民になじみの場所や歴史がちりばめられました。